

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830036		
法人名	株式会社プラットフォームケア		
事業所名	グループホームほうすい1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町北町85		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建ての構造を生かして利用者様が1,2ユニット自由に行き来し他ユニットの利用者様と交流を図っている。毎月の行事を行い合同で楽しまれる。職員も1,2合同で申し送りを行い理念を唱和し両方の利用者様の状態把握を行い支援を行っております。地域に密着し隣の保育園の子供達との交流を図っている。地域との繋がりを大切に消防訓練に地域の方々に参加していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設して10年以上が経過し、地域に密着した活動を行っている。自治会に加入し、清掃奉仕活動(年2回)や町内の花壇整備、秋祭りなどにも参加している。防災訓練には区長や地域住民等の協力も頂き、利用者の暮らしの安全にも努めている。運営推進会議のメンバーも幅広い関係者で構成され、運営に活かされている。隣の保育園児との定期的な交流は利用者にとって大きな喜びにもつながっている。
2. 管理者は日々の業務をおし、職員とのコミュニケーションを深め、意見や提案を吸い上げて運営に活かしている。毎月の勤務表も家庭環境等を勘案したうえで作成し、働きやすい環境づくりに努めている。毎朝のミーティング時に職員表情にも留意し、小まめな声かけを行っている。エリア長も週1回事業所を訪問し、管理者ほか職員の状態把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日の始まりに毎朝の申し送りを1, 2合同でホーム理念、ホームの目標を唱和し理念に向けたケアの実践を行っている。	毎朝のミーティングで理念並びにスタッフ目標を唱和して理解を深めている。毎年理念の確認見直しを行うとともに、年度事業計画も理念内容を基軸として策定している。ホール及び玄関入り口に掲示し、来訪者への理解促進にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の防災訓練も地域の方に参加して頂き地域との交流を図っている。	自治会に加入し、清掃奉仕活動(年2回)や町内の花壇整備、秋祭りなどにも参加している。防災訓練には区長や地域住民等の協力も頂き、利用者の暮らしの安全にも努めている。隣の保育園児との定期的な交流は利用者にとって大きな喜びにもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解は包括支援センターの研修等認知症カフェなどを利用しグループホームの役割や成果を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナで運営推進会議は書面で行っている。ホームの状況を報告し意見や要望を頂き職員全員で話し合い課題を検討し事業所の運営やサービスの向上に繋げている。	コロナ感染対策を優先し、矢吹町役場とも協議の上、文書開催としている。会議資料に委員からの意見書を添えるとともに、資料を持参する際に事業所の現状を伝えている。地域での行事や事故防止への助言等、頂いた意見を職員内で共有し、事業運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の社会福祉協議会や役場、包括支援センターの情報交換会に参加し町の担当者と密に連絡を取り相談し協力を頂いている。	管理者は電話やメールの他、月2~3回は町担当課に出向き、事業所の取り組みや実情を伝えている。町が主催する2ヶ月ごとのケアマネジャー等が集う会議にも担当職員が出席し、処遇困難事例等の情報を共有し、町や関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設け職員全員で話し合い課題を検討し高速をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに開催し、拘束を必要としないケアに取り組んでいる。委員会ごとに「身体拘束チェックシート」を使用し拘束の有無について確認をしている。委員会議事録を回覧し、職員間で情報を共有している。玄関は防犯対策で19時から翌朝6時まで施錠し、日中は解錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修動画を職員順番にみるように徹底され報告書を記入している。又、言葉や言動に虐待の疑いを感じたり見かけた場合は管理者に報告し全職員で話し合い見過ごされることがないように努めている。	「虐待防止に関する指針」に基づき、年2回委員会を開催するとともに全職員が高齢者虐待の動画研修を視聴し、虐待への理解及び防止に努めている。不適切な声かけ等が見受けられた場合、職員間で注意し合える関係を構築している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修動画を職員順番に観るよう徹底され報告書を記入している。今後制度を利用する方などに活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約の際など本人、ご家族様に不安や疑問点などないよう十分な説明をするよう心掛け理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日頃の会話に耳を傾け訴えや希望などを検討し改善に取り組んでいる。家族の意見や要望などは面会時や電話などで状況を報告し話し合っている。	玄関内でパーティションを挟んでの面会を行っており、管理者もその都度、家族から意見を伺い、生活支援に活かしている。看取り期に寄り添いたいと願う家族には居室での面会・宿泊も許可している。利用者との日々の会話や表情・仕草などから要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員が意見の言いやすい環境を作っている。スタッフ会議では自由に意見や提案など出し合い把握し、ケアや運営の改善に取り組んでいる。	管理者は日々の業務をおし、職員とのコミュニケーションを深め、意見や提案を吸い上げて運営に活かしている。毎朝のミーティング時に職員の表情にも留意し、小まめな声かけを行っている。エリア長も週1回事業所を訪問し、管理者ほか職員の状況把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族環境や希望に応じたシフト調整を行い働きやすい職場環境作りを努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画により管理者や職員の力量に合わせた研修に参加しスキルアップ出来るように進めている。	法人の管理部において研修メニューや社内資格制度が定められ、職員は毎月テーマ別の動画研修を視聴している。外部研修参加後は事業所内で伝達研修を行い、理解を深めている。ケース検討会議や各委員会も研修・学びの場として活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて他ホームと意見交換を行い、地域とホームと連携しサービスの質の向上が出来るよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人、物等の環境を整え、コミュニケーションを多く取り不安な事を解決して行き安心して過ごせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との信頼関係が築けるようまずは家族様が話しやすい環境を整えよく話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、まず必要としている支援、サービスを実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い具体的には料理、作物の作り方生き方等教えて頂いたり共に助け合いながら生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様にお手紙で近況をお知らせしたり、体調に特変があった場合すぐに連絡している。又面会の時等スタッフが間に入り本人と家族との仲立ちや取り持つことも行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の地域等馴染みの場所を行事等を通して継続支援している。知人、友人等面会の機会があれば実施し、会話を楽しめるよう支援している。	面会には家族のみならず友人・知人も訪れ、楽しい時間を過ごしている。家族との墓参りや自宅への外出のほか、馴染みの飲食店や理髪店の利用など、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。老舗菓子店のお饅頭を準備し、昔話に花が咲くような支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の中でラジオ体操や手足の運動などで交流する機会がある。又、レクリエーションやホーム行事などで関わり合いの場が持てる環境にある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても依頼があればできる限り対応して支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画の更新、アシメントしなるべく本人の意向にそえる支援になるように努力している。	日々のケア場面、特に入浴場面にはコミュニケーションが深まり、把握した希望や意向を職員間で共有している。意向確認が難しい場合は、表情や仕草から思いや願いを推察し家族からの情報を活用するなど、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをして出来る限り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことより、できることに焦点をおきその人の力を発揮できるケアを行い、一人ひとりの暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で話し合いを行い、意見を取り入れ出し合っている。また家族との話し合いをして個別の具体的な計画、わかりやすい介護計画を作成するように努めている。	暫定ケアプランは1ヶ月を目標とし、その後は長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月を基本として策定している。居室担当者が中心となりアセスメントをとり、利用者・家族の希望を聴取し、ケアマネジャーが原案を策定している。毎月のケース検討会で全利用者のケアプラン進捗状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっている。職員間で声を掛け合い情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況は変わっていくので柔軟に取り組むことが出来るように心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までコロナ過でできなかったが今後本人や家族の意向に沿って支援が行えるよう努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の訪問診療を受けており夜間や休日でも速やかな対応ができるようにする事目的に家族には理解を得ている	利用者と家族の希望に沿って協力医療機関の訪問診療や専門医への通院が行われている。通院の際は家族が対応し、訪問診療の際は事業所で対応している。受診結果は、家族へコピーの送付や電話等で共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態の変化や相談したい内容について早急に看護師に伝え指示、助言等共有できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時スタッフが付き添い病院関係者と随時確認を行いながら、円滑に通院までの流れを作るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所規約時に今後どのような形を望んでいるかを確認した上で重度化及び看取りに関する指針について説明を行うことにより方向性を共有できるようにしている	契約時、利用者と家族に事業所の「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。また、終末期の看取り等について事前に意志確認をしている。重度化した際には、再度、意志を確認しながら医師・家族・事業所で方針を共有し、連携を図り看取り支援を行っている。看取りの職員研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事故発生に備えて救命救急法の社内研修は行っているが冷静に対応できるようにしたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間を想定とした避難訓練、消防訓練を行っている又、年2回総合訓練には地域の方々の協力体制を築いている	年間計画に沿って、毎月、夜間想定・地震・風水害等の避難訓練を実施し、消防署の立会を得た総合訓練も実施しているが、記録に避難時間等が記入されていない。地域住民の協力による緊急時や災害時の応援体制があり、事業所の非常用備蓄品として、食料・水・缶詰等2日分を備蓄している。	毎月、実施する避難訓練の想定内容をより詳しく設定するなど、事業所の避難限界時間を明確にし、時間内に避難できるよう訓練に取り組まれたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応を行い、常に誇りやプライバシーをそこねないよう、声掛けの言葉使いに気を付け、相手の気持ちになり対応している	プライバシーや接遇に関する職員研修を毎年実施し、利用者の気持ちに寄り添い誇りやプライバシーに配慮したケアに努めている。トイレの誘導では、羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。また、利用者の個人情報に関する書類は施錠できる書庫等で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時など、本人の思いや希望等聞き、自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、自由に好きな事、やりたい事など希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常や入浴、着替え時等、季節に合った服が着れるよう声掛けし本人が着たい服を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食器洗い、食器拭き等にもスタッフと一緒にいに行い食べ物の作り方や昔よく食べた物などを教えて頂き、会話を楽しんでいる	配食会社のチルド食を利用し、ご飯とみそ汁を事業所で手作りしている。区長さん等からいただく旬の野菜等を使って一品追加提供することもある。また、誕生日や行事の際は利用者の希望に応じ、行事食やちらし寿司等好みの食事を提供している。おやつには、手作りおはぎ等を提供し、季節感を感じてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し食事の形態、配膳を行っている。又、好みの飲み物を一日一回提供し水分量の少ないときには声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態を観察し清潔を保ち異常に気づいたら管理者、家族に連絡を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の日常生活における排泄のお役に立てるよう心構えをし介助を行っている	利用者の排泄記録や排泄サイン(表情・仕草・動作等)から排泄パターンを把握し、一人一人に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている。自立にむけた排泄支援を行っており、事業所へ来てから改善した利用者もいる。また、毎月、福祉用具業者が排泄に関する研修を行ってくれた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴排泄チェック表を日々確認して排泄パターンを把握し体調を考え、野菜中心の食事を取り入れる事を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりが出来る事を声掛けして会話ができて希望に合わせた自立支援に役立てる支援を行っている	利用者の希望に沿った入浴が出来るよう支援している。入浴剤・菖蒲湯・ゆず湯・みかんの皮を使用し、職員との会話を交わしながら入浴が楽しいものとなるよう支援している。入浴を好まない方には、時間や対応等の工夫により入浴して頂けるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの季節に合わせた生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるようにリネン交換を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋を確認し誤薬防止を目的としてスタッフ2名で確認、服薬を目視、症状の変化を観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、食器洗い、食器拭き、掃除等一人ひとりが得意とするお手伝いを行っている。月別ごとに行事を取り入れ楽しみ等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出は控えていますが本社からのバスを利用しはなみどに出掛け車窓にて外の景色を眺めたり外の空気に触れ楽しんでもらっています。又、コロナが終息すれば地域の方々と協力しながら外出の場を広げていきたい。	コロナ禍においても、花見や紅葉の時期にバスを利用してドライブに出かけ、利用者の気分転換の機会となっている。また、家族と通院後に自宅や墓参り等に外出の機会もある。これからは、以前参加していた認知症カフェ等にもコロナが落ち着いてきたら出かけたと思っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームにて預かり本人希望のものがあればご家族様や職員が購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が電話をかけ本人と話す機会やリモート面談など設けている。又、毎月のお手紙には状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節を表わす飾りつけなどし居心地良く自由に過ごせるように工夫している	共用空間には、利用者と一緒に行った作品や行事ごとの写真等が掲示されている。ソファ・テーブル・椅子等、一人一人が思い思いに好きな場所で、テレビを見るなどゆったりとした時間を過ごしている。また、温度・湿度に気を配り快適に生活が送れるよう支援している。清掃も行届き、衛生面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様を隣りにし会話を楽しんでもれえるよう工夫したり状況に応じ移動したりと思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	写真や手作りされた物、書いたものなど飾りその人らしく居心地良く暮らせるように工夫している。	居室には、ベッド・エアコン・トイレ・洗面台が設置されており、家族と相談の上、使い慣れた寝具・家具・テレビ・植木・毛糸・遺影等を持ち込んでもらっている。壁には、利用者の手作り作品等が飾られ、落ち着いた中にも居心地良く生活が送れるよう環境整備がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできることをいかせよう、ベットの配置や椅子を置きつかまって歩けるように工夫し安心、安全に過ごせるような環境づくりに努めている。		